

# 耕平さんかわら版

皆さん、こんにちは。もうすぐプロ野球の開幕です。今年には落合監督率いる中日の躍進を期待したいですね。でも、どんな大監督でも選手が活躍しなくては勝てません。今、国会では年金制度改革論議が行われていますが、大監督と選手の話は年金積立金の運用の話と構造が似ています。

## 年金制度改革の政府案って？

政府の年金制度改革案はハッキリ言って恐縮ですが、デキがよくありません。今後の財源不足を、給付額の引き下げ、保険料の引き上げという、誰でも考えつくような安直な対応で賄おうというものです。要は増税と一緒です。困ったものです。これでは、保険料未納者が増えます増えることでしょう。

ところで、もっと重大なこととは皆さんの積立金の運用に関する改革案です。今までは、

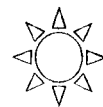
グリーンピアなどの無駄な施設建設で有名になった特殊法人の年金福祉事業団が運用していました。これを、独立行政法人にして、民間から理事長を迎え入れるという内容です。さて、これどうまくいくでしょうか。

## 理事長は大監督？

現時点での年金保険料の積立金は百四十七兆円です。スゴイ金額です。これをひとりで預かる理事長はスゴイ運用手腕です。年金運用を担う独立行政法人を野球チームに喩えれば、理事長は落合監督や王監督をはるかにしのぐ大監督です。でも、実際にプレーする、つまり実際に運用する選手は実は銀行や証券会社です。今度の改革案では、その銀行や証券会社が運用に失敗しても、監督である理事長に責任は及ばないようです。何か変ですね。

どんな選手を起用するのか、またどんな作戦を立てるかを考えることは監督の仕事です。でも、あまりに成績が悪ければ監督が責任を問われるのは当然です。ところが、どのような結果になろうと、誰が責任を取るのかがはっきりしていないことが今回の改革案の重大な問題点です。「年金積立金運用チーム」の選手は銀行・証券会社、監督は理事長、球団社長は坂口厚生労働大臣、ゼネラルマネージャーは小泉首相、でもオーナーは国民の皆さんです。責任の所在のハッキリしないチーム構造は改革が必要です。そもそも、百四十七兆円もの積立金が溜まるような仕組み自体が問題です。

皆さんの保険料や積立金、さらには将来の年金をどうするのか。重要な問題です。今後の国会審議で厳しい議論を行っていききたいと思います。



## 覚王山ツクツクコーナー



—— 覚王山近辺の名店を続々紹介します！ ——  
 < 今回ご紹介するのは、「ビーナトレーディング」さんです >

日泰寺の参道入り口から本堂に向かって少し進むと、右手に、異国情緒漂う店構えの「ビーナトレーディング」さんがみえてきます。

まず気になったのが、このビーナトレーディングというお店の名前の意味。ご主人の中川潔さんに聞いてみました。「ビーナ」とは、インドの女神「サラスパティ」が奏でたという楽器で、日本の琵琶に近いもの、インド、ネパール、タイからの輸入雑貨・楽器を扱う当店のいわば象徴なのだそうです。

当店が開店したのは1994年。かつてインド旅行で現地の風物に魅せられた中川さん、こうした品々を日本の方にも紹介したいとこのお店を始め、現在では、お店で品物を売るだけでなく、**毎週、民族楽器の演奏会も開催している**のだとか。

当店では、**お店で品物を買ったお客様にチャイのサービス**があるそうです。皆様お楽しみに！

ビーナトレーディング：763-0826

年金改革など課題は山積み  
 「冗談言ってる場合じゃないでしょ！」

